

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』
1 「社会人としての素養」を育む 「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。
2 「確かな学力」を育む 基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また自学自習の習慣を身につける環境、学習支援体制を整え、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。
3 「未来を拓く力」を育む 生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く力の育成 (1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 「主体的・対話的で深い学び」に基づいた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。 イ 教職員相互の授業見学・研究授業および教員研修等を通して「授業改善」を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度 80%以上を維持する。(R03：76%、R04：83%、R05：82%) (2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。 イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。 (3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。 イ 希望する進路の実現に向けて、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度 85%以上を維持する。(R03：83%、R04：89%、R05：89%)
2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養 (1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア 生徒が安心して相談できる環境を整備し、課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議で的確に把握できる体制を作る。 イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。 (2) 生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。 イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動、生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。 ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。
3 安全・安心で魅力ある学校づくり (1) 生徒が安心して安全に生活できる環境づくり ア PTA や同窓会等と連携して、生徒が安心して過ごせる安全な教育環境整備をすすめる。 ※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を生徒・保護者とも 60%以上にする。 (R03：生徒 55%、保護者 57%、R04：生徒 63%、保護者 52%、R05：生徒 67%、保護者 49%) イ 保護者への積極的な情報提供・発信に取り組むとともに、個人情報情報の適正管理を徹底する。 ウ 地域との連携を通して、様々な安全教育に取り組む。 (2) 地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。 イ 「総合的な探究の時間」を中心に、地域の様々な課題に取り組むことで連携強化を図るとともに、地域に貢献できる人材を育成する。
4 校務の効率化と働き方改革の推進 (1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 (2) 校内ネットワークを含めた ICT の活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 6 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【令和 5 年度との比較】 ・ 生徒結果では、全 22 項目中 18 項目で肯定度が上昇した。 ・ 保護者結果では、全 22 項目中 19 項目で肯定度が上昇した。 ・ 教職員結果では、全 22 項目中 13 項目で肯定度が上昇した。 ※ 昨年、今年とも肯定度 100%の項目を含む。 【学習指導等】 ・ 生徒結果では、9 項目中 8 項目で肯定度が上昇した。中でも「学校で勉強するのは大切」は、肯定度が 91.4%となり初めて 90%を越えた。また、保護者結果では学習指導に関わる 4 項目すべての肯定度が上昇した。今年度は、府教育センターのパッケージ支援のもと授業改善 PT を中心に「卒業までに生徒につけたい力」を明確にしたうえで授業改善を進めたこと、朝学習で基礎学力充実に取り組んだことが評価につながったもの	◇ 第 1 回（令和 6 年 6 月 25 日実施） ・ 生活指導の肯定度が高いことから、多くの生徒は自分たちを守ってくれる過ごしやすい学校だと認めていることが伺える。 ・ 手厚い指導がされているが、先生方の時間外勤務は減少しており、良い指導をされているように感じる。 ・ 様々な指導においても、納得感を得られる伝え方を工夫されていると推察でき、先生方の愛情を感じる。 ・ 授業見学をしたが様々な工夫がされており、授業に集中している生徒が非常に多かった。 ・ 教員数が減少していく中、様々な課題を抱えた生徒に対しても、変わりなく生徒に寄り添い一人ずつのフォローをしていただきたい。 ◇ 第 2 回（令和 6 年 11 月 22 日実施）

と考えている。 ・教職員の「指導方法の工夫・改善」「ICT 機器を積極的に活用」の肯定度は、ともに 100 %であった。また、「主体的・対話的で深い学びの学習指導」の実施度は7.4%上昇し95.2%となった。加えて、生徒の「先生は教え方を工夫している」の肯定度は92.1%で過去最高となった。こちらもパッケージ支援のもと授業改善 PT が行った取組みが、効果的に機能したものと考えている。 ・「評価についての話し合い」の肯定度は13.0%減少し81.0%となった。昨年度は観点別学習状況の評価方法について取り組んだが、今年度は「授業改善」に重点を置いて取り組んだため肯定度が減少する形となった。「学習評価」も「授業改善」との結びつきが深いことから、授業改善 PT を中心に継続的に話し合う場を設けていく必要がある。 【生徒指導等】 ・「生活指導をきっちりと行っている」の肯定度は生徒95.0%、保護者81.7%であった。また、「悩みや相談に親身に応じてくれる」の肯定度は生徒83.6%、保護者81.8%となり、保護者で18.2%の上昇がみられた。加えて、教職員における「いじめ対応や教育相談などの支援体制」「カウンセリングマインドによる生徒指導」は肯定度が大きく上昇し、ともに90%を超えた。本校が掲げている「時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行う」という指導方針のもと、学校体制が着実に整いつつあるものと考えている。 ・今年度、学級数の減少に伴い教員数も大きく減少したが、生徒に対してきめ細かく手厚い指導・支援を行ったことから、生徒は充実した学校生活を送ることができていると考えている。 ・行事面における「学校行事への主体的な参加」の肯定度は生徒85.7%、保護者70.3%で、生徒の肯定度は微増であったが保護者は7.1%増と大きく上昇した。今年度は全学級数が5クラスと半減したことで、文化祭をはじめとする学校行事全般で盛り上がりが懸念されたが、生徒の状況を把握したうえで、適切な行事運営がなされたことが結果につながったと考えている。 ・「部活動が盛ん」の肯定度は、生徒14.9%減、保護者12.4%減と大きく減少した。新入部員がいらないことから部活動の魅力が低下し、運動部を中心に生徒数が減少するなど、厳しい状況が反映される形となった。 【学校運営】 ・「個人情報を守られている」の肯定度は生徒95.7%、保護者84.4%で、生徒1.2%増、保護者7.1%増とそれぞれ上昇した。今年度、校内の情報管理体制を明確にするとともに、職員会議等を通じて頻繁に情報漏洩や流出等の事例について周知・徹底した。引き続き、情報管理の徹底に向けて取り組んでいきたい。 ・保護者の「HP や学習支援連絡網の利用」については、HP の更新数やメール配信数に加えて、メール登録者数（保護者）を増やしたが結果には結びつかなかった。来年度は、本校最終年度となることから卒業生や地域の人々への発信も含めて、積極的に情報発信を行っていく必要があると考えている。 ・教職員の「校長は教育理念や学校運営の考え方を明らかにしている」の肯定度は11.7%減少し76.2%であった。一方、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定度は12.6%上昇し76.2%となった。校長の教育理念のもと、教職員が主体的に考え学校運営に参加したことによる結果であると考えている。 ・次年度は本校最終年度となるが、引き続き生徒が充実した高校生活を送ることができるように、校長が学校運営の方向性をしっかり示していく必要があると考えている。そのうえで、教職員間の意思疎通と協力体制をより充実させることで、「めざす学校像」に掲げている『社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校』の完成に向けて取り組んでいく。	・指定校推薦の枠の数が多く、受験生にとっては安心して学校生活を送ることができる環境であると思う。 ・就職については、大学を卒業していてもなかなか決まらないこともある中、就職内定率が高いのは素晴らしい。 ・就職先の企業も長年お付き合いがある地元の企業が多く、信頼関係ができていることは非常に素晴らしい。 ・大阪・関西万博に行くのかどうするのか気になっていたが、安全性や交通手段等の問題も踏まえて検討していただいております、安心して任せられると感じた。 ・教員数が減少する中、朝学習を行い基礎学力調査の成績が大きく上がるなど実績を残しており、よく頑張っていたでいる。先生方も健康管理には十分に気を付けてほしい。 ・基礎学力調査の成績に加えて、授業アンケートの平均も3.54 と高い数値であり、日々の先生方の努力が反映されている。 ・学校運営全体を見ると、生徒のことを考え運営できていると感じる。1つ1つの取組みに愛情が詰まっており、生徒はそれを感じ取っていることが高評価につながっていると思う。 ・生徒にとっては、「今」が一番いい思い出になっていくと思う。行事だけでなく日々の取組みについても、思い出として残るようにしてあげてほしい。 ・文化祭で、同窓会の手伝いとしてご夫婦やご家族で来られている方もたくさんおられ、美原高校への愛情を感じた。アットホームな雰囲気で有難いと思った。 ◇ 第3回（令和7年2月21日実施） ・平均遅刻回数の評価については、配慮を要する生徒を除いた回数である 1.2 回をもとに考え、「達成した」としてもいいのではないかと。 ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」で、肯定度は生徒と保護者の間に開きがある。高校生ということもあり、生徒と保護者の意思疎通にも課題があるのかも知れないが、少し気になった。 ・学校教育自己診断「HP・メールの利用度」については、目標を達成できていないが努力はしていただいている。来年度は閉校に向けての最終年度になるが、引き続き閉校に向けての情報も含めて適切な情報発信をお願いする。 ・授業アンケートを踏まえて客観的に分析したうえで、次に向けての目標設定をしており素晴らしい。 ・教員数が大きく減っている中、学校教育自己診断や授業アンケートなどについても非常にいい評価が出ている。来年度は閉校に向けての最終年度になるが、引き続き「美原高校に来てよかった」と生徒に実感してもらえるような環境づくりをお願いする。 ・厳しい家庭状況の中でも頑張って来ている生徒さんもいることと思う。引き続きサポートをお願いするとともに、先生方についても健康には十分に留意して頑張っていたきたい。 ・生徒にとっては、これからの1日1日が思い出となっていく。美原高校でいい思い出を残せるよう取り組んでいただきたい。 ・日頃の先生方の手厚い指導が、様々な評価に反映されていると実感した。今の状況で頑張っていたで、全員が無事に卒業できるように取り組んでいただきたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 進路を切り拓く力の育成	(1)「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 「主体的・対話的で深い学び」による「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。	ア・授業改善 PT を中心にグループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進め、「主体的・対話的で深い学び」を通して、「確かな学力」の育成をめざす。 ・ ICT 機器を積極的に授業で活用し「わかる授業」への取組みを推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒）「勉強することは大切」の肯定度を昨年度以上にする。[90%] ・学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」の肯定度を 83%以上にする。[82%] ・教員の授業での ICT 活用度を昨年以上にする。[91%]	ア「勉強することは大切」91.4% 「授業はわかりやすい」83.6% ・授業改善 PT を中心に「卒業までに生徒につけたい力」を策定し、教員研修や授業研究等を通じて「確かな学力」の育成に努めた。【○】 「教員の ICT 活用度」100% ・教員研修や授業研究等を通して、教員全員が「わかる授業」に向けて ICT 機器を活用するに至った。【◎】
	イ 教職員相互の授業見学・研究授業および教員研修等を通して「授業改善」を図る。	イ・授業改善 PT を中心に授業改善に向けて検討を行い、公開授業・研究授業や教員研修等の実施を通して、授業改善・授業力の向上を図る。	イ・学校教育自己診断(生徒)「教え方の工夫」の肯定度 90%以上を維持する。[91%] ・授業アンケートによる評価の平均値 3.4 以上を維持する。[3.51]	イ「教え方の工夫」92.1% 授業アンケート評価平均 3.54 ・府教育センターのパッケージ支援のもと、授業改善 PT を中心に全教員が 1 年間を通じて授業改善・授業力の向上に取り組むことができた。また、学校教育自己診断（教員）「主体的・対話的な学習指導」の実施度は 95.2%（7.4%上昇）となり成果が出た。【◎】
	(2) 基礎学力の定着、学習習慣の確立 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。	ア・少人数展開授業を全ての学年で取り入れ、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 2 年：国語、数学 3 年：国語、英語	ア・学校教育自己診断（生徒）「少人数によるきめ細やかな指導」の肯定度 80%以上を維持する。[83%] ・少人数展開授業アンケートでの満足度について、昨年度水準を維持する。 [2 年：国語 93%・数学 81%、 3 年：国語 99%・英語 82%]	ア「少人数による指導」82.1% 少人数展開授業満足度 2 年：国語 94%・数学 86%、 3 年：国語 95%・英語 92% ・少人数授業を通して個別に幅広く丁寧な指導ができている。また、生徒と教員の意思疎通が良くなることで、学校教育自己診断（生徒）「授業でわからないことは質問できる」の肯定度は毎年上昇し、はじめて 70%に達した。【○】
	イ 図書館を学校での学びのセンターとして位置づけ、調べ学習や自学自習の場としての利活用の推進を図る。	イ・地域の図書館との連携を図るとともに、調べ学習や探究活動等、図書館を利活用した授業を推進する。	イ・図書館利用数並びに貸出数を 600 人 100 冊以上を維持する。 [1702 人（うち授業 611 人）・286 冊]	イ 図書館利用数 758 人（授業 379 人） 貸出数 75 冊 ・利用者数は順調に伸びている。図書委員を活用して、生徒の視点から本や図書館の魅力を発信したが、貸出数は伸び悩んでいる。【△】
	(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。	ア・3 年間を見通した計画に基づいて、自身のキャリアデザインについて考えさせる授業を展開するなど進路指導の充実を図ることで、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。	アイ ・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」の肯定度 85%以上を維持する。[89%] ・学校斡旋就職 1 次内定率を 85%以上にする。[83%]	アイ「適切な進路指導」92.9% 学校斡旋就職 1 次内定率 87.5% ・進路に関する取組みを手厚く充実させるとともに、保護者に対しても進路情報を積極的に発信する取組みを行った。学校教育自己診断(保護者)「適切な進路指導」肯定度は 81.6%となり 6.2%上昇した。また、「朝学習」を実施することで、基礎学力調査の成績（偏差値）が向上した。 2 年生：46.6（R 5）⇒ 50.1（R 6） 3 年生：44.7（R 5）⇒ 45.8（R 6） 【◎】
	イ 進路実現に向けて、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。	イ・全学年を対象に、始業前に「朝学習」を実施し、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。		

府立美原高等学校

2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養	(1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア さまざまな支援が必要な生徒に対し情報共有しながら、組織として支援できる体制を整える。	ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を学年、人権教育委員会、生徒支援会議での確に把握し、指導できる体制を維持する。	ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）「親身に相談に応じてくれる」肯定度を昨年度以上にする。[81%・64%] ・学校教育自己診断（保護者）「相談に適切に応じてくれる」肯定度 70% 以上を維持する。[70%]	ア「親身に相談に応じてくれる」生徒 83. 6% 保護者 81. 8% 「相談に適切に応じてくれる」78. 9% ・家庭環境や健康状態等で気になる生徒については、定期的に観察・聞き取りを行い生徒支援会議で情報共有した。また、生徒に対して全教員で手厚く見守ることで、安心して過ごせる環境が整いつつある。【◎】
	イ 生徒一人ひとりが抱える諸問題に必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。	イ・SC を活用した教育相談窓口の充実を図り、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことで、不登校等を減少させる。 ・SSW を積極的に活用し、保護者、中学校、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携強化を図る。	イ・SC の活用回数 11 回、活用件数を 11 件以上を維持する。[11 回 17 件] ・SSW の活用回 12 回、活用件数を 12 件以上を維持する。[12 回 14 件]	イ SC の活用回数 12 回、活用件数 18 件 SSW の活用回数 14 回、活用件数 7 件 ・生徒からの申し出に加えて、気になる生徒についても、積極的に SC や SSW につなぎ活用するように促した。また、SC・SSW 通信を 2 回発行し、生徒・保護者に活用を促したが、SSW の活用件数は伸びなかった。【△】
	(2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。	ア・生活習慣の確立をめざす取組みを全教職員で行うとともに、「支える生徒指導」の実践を通して生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。	ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数 1. 7 回以内にする。[2. 3 回] ・学校教育自己診断（生徒）「生活指導」肯定度 90%以上を維持する。[97%]	ア 平均遅刻回数 2. 3 回 ・配慮が必要な生徒については、「遅刻をなくす」ことより、まずは「登校すること」を目標とするなど、個別に丁寧な対応を行った。また、配慮を要する生徒を除いた場合、平均遅刻回数は 1. 4 回であった。【△】 「生活指導」肯定度 95. 0% ・時には厳しく寄り添いながら対話することを大切にする生徒指導・支援を進めており、生徒の状況に応じて個別に丁寧な対応を進めている。【○】
	イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や部活動、生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。	イ・体育大会、文化祭等の学校行事において、生徒が主体的に企画・運営・参画できるよう取組みを充実させる。 ・部活動の成果を発表する機会を増やしたり部活動を表彰することで、部活動の活性化を図る。	イ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事」参加肯定度 70%以上を維持する。[86%] ・在校生の部活動加入率 40%以上を維持する。[42%]	イ 「学校行事」参加肯定度 85. 7% ・学級数が大幅に減少する中、行事規模を維持しつつ、生徒一人ひとりが行事に関わる密度を高める取組みを進めることで、生徒が主体的に参加できるよう工夫した。【○】 部活動加入率 39. 4% ・下級生の入部が期待できない現 2 年生は、入学時から部活動加入率が低かった。そのうえ、夏以降に 3 年生が部活動から退いたことで活動を維持することが難しくなり、運動部を中心に部活動加入者が減少した。【△】
	ウ「総合的な探究の時間」を中心に、3 年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。	ウ・いじめや SNS をめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 ・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で、国際理解学習を計画的に取り入れる。	ウ・学校教育自己診断（生徒）「人権教育」に関する肯定度を 90%以上にする。[89%] ・外部人材を招聘し、国際理解学習を効果的に行う。	ウ「人権教育」に関する肯定度 95. 7% ・授業での取組みや講演に加えて、集会や日頃の指導においても積極的に人権に関わる内容を取り入れたことが、好影響を与えたと考えている。【◎】 ・JICA から派遣された講師による「異文化理解・SDGs」に関する講演会を行った。【○】

府立美原高等学校

3 安全・安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり ア PTA や同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。	ア・PTA や同窓会等と連携し、快適で充実した教育環境整備並びに校内の緑化活動を推進する。	ア・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度を 60%以上にする。 [生徒 67%、保護者 49%]	ア「施設・設備」満足度 生徒 70.0% 保護者 57.0% ・PTA の協力のもと、校内緑化活動や熱中症対策、図書館整備などの事業を行った。保護者満足度は目標を下回ったが、生徒・保護者とも昨年度より肯定度が上昇するなど、取組みに対して一定の理解は得られつつあるものと考えている。【△】
	イ 保護者への積極的な情報提供・発信に取り組むとともに、個人情報の適正管理を徹底する。	イ・緊急時や非常変災時の対応もふまえたうえで、日常から学校情報を HP やメール配信等により保護者へ迅速かつ適切に発信する。	イ・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を 70%以上にする。[64%]	イ「HP・メール」利用度 61.7% ・HP 更新 54 回など積極的に行った[R 5:26 回]。また、学習支援連絡網の登録者数(保護者)を大幅に増やす取組みを行ったうえ、発信数も増やしたが、目標達成には至らなかった。【△】
	ウ 地域との連携を通して、様々な安全教育に取り組む。	・校内の情報管理体制を明確にするとともに、教職員の意識を高めることで個人情報の適正管理を徹底する。	・学校教育自己診断(生徒)における「個人情報の適正管理」の肯定度 90%以上を維持する。[95%]	「個人情報の適正管理」95.7% ・教職員研修を行うとともに、個人情報漏洩や紛失に関する事象について頻繁に情報共有を行った。また、学年・分掌・委員会ごとに情報管理体制を明確にするなど、個人情報の適正管理に対する教職員の意識を高めた。【○】
	(2) 地域に貢献できる人材の育成 ア 地域の行事に積極的に参画し、社会への帰属意識を向上させる。	ウ・地域の外部機関等との連携を通して、熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等、生徒の安全や安心を高める取組みを行う。	ウ・外部機関等との連携を通して、生徒の安全や安心を高める取組みを 4 回以上行う。	ウ 交通安全、薬物乱用・非行防止、性に関する講演会、救急救命などの講演・講習を地域と連携し行った。【○】
	イ「総合的な探究の時間」を通して、地域に貢献できる人材を育成する。	ア・生徒の地域のイベント等への自主的な活動を推奨し、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。	ア・地域のイベント等への部活動生徒の参加を積極的に行う。	ア 支援学校との交流会(生徒会・演劇部: 計 2 回)や堺市高校茶道部おもてなし会(茶道部)、地元商業施設での美術選択生徒によるクリスマス工作(幼児対象)、みはら芸術展への作品出展(美術部・生物同好会)など、積極的に地域活動に参加した。【○】
		イ・「総合的な探究の時間」で地域が抱える課題に対して、生徒が地域の人々と解決に向けた取組みを行う。	イ・「総合的な探究の時間」を活用し、地域課題の解決に向けた取組みを行う。	イ 自然災害に対する防災・減災について、地元区役所と防災センターの協力を得ながら行った。また、区の政策会議をはじめ地域の方々にも関わっていただくなど有意義な取組みとなった。【○】
4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 (2) 校内ネットワークを含めた ICT の活用による、業務の効率化および情報の共有化を推進する。	・学校全般の業務を見直すとともに、各分掌や委員会においても業務の削減・効率化を図る。 ・ペーパーレス会議の実施、メールの配信、分掌・委員会・学年での情報の共有化など、ネットワークの活用を推進することで業務の効率化を図る。	・職員の時間外労働月平均時間 30 時間以下を維持する。[21. 1h] ・ペーパーレスでの職員会議を継続する。また、事前に会議資料を共有することで会議時間を 50 分以内にす る。 ・管理職からの連絡や、資料提供にメール配信等を活用する。[544 回] ・職員朝礼等の連絡事項は、全校トップページ内にある美原高校の連絡掲示板を活用する。[311 回]	・時間外労働月平均時間 14. 1h 学年・分掌・委員会等について、業務削減・効率化を進めるとともに、教員ごとに業務が極端に偏らないよう平準化を行うなど、時間外労働の縮減を図った。【◎】 ・職員会議平均時間 40 分 年度当初は審議案件が多く、会議時間が 50 分を上回ってはあったが、年間を通じて事前に会議資料を共有することで会議時間の縮減ができた。【○】 ・管理職(校長・教頭)からのメール配信 812 回 ・連絡掲示板の活用 268 回 連絡掲示板やメール配信を活用することで、効率的に情報共有することができ、業務の大幅な効率化につながった。【○】